

令和 8 年度農福連携等コンソーシアム総会資料
活動報告（3）



JA 共済「もっともっとノウフク2025」応援フェア 開催結果



発表者 農業・地域活動支援部
担当課長 諏訪 賢慈

1

JA 共済が「農福連携」に取り組む背景

『農業を母に。助け合いを父に。』

「一人は万人のために、万人は一人のために」

日本の農村では、古くから共同体をつくり、お互いに支え合い、助け合って暮らしを営んできました。

日常の農作業はもちろん、自然災害や火事などの災害時には、共同体全体で助け合ってきました。

そうした歴史を背景に、農家組合員が協力して農業生産力の増進と経済的・社会的地位の向上をはかること、そして、協同による事業活動を通じて、農家組合員の幸福と利益を実現することを目的に「農業協同組合（JA）」は生まれました。

JA 共済事業は、こうした相互扶助（助け合い）を事業理念として、人間性の尊重や地域社会づくりへの貢献をめざしています。

JA 共済事業の使命

- ・ JA 共済は、農業協同組合が理念とする「相互扶助」を事業活動の原点とし、常に組合員・利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」を提供します。
- ・ JA 共済は、最良の保障・価格・サービスによる「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者の豊かな生活づくりに努めます。
- ・ JA 共済は、事業活動の積極的な取り組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献します。



JA共済が「農福連携」に取り組む背景



JA共済は豊かで安心して暮らせるため、保障の提供と地域貢献活動を通じて、地域社会へ「安心」と「満足」を提供しております。

保障の提供

ひと・いえ・くるま・農業に関する保障（共済）を提供
 「ひと」：生命総合共済（終身・医療・介護など）
 「いえ」：建物更生共済
 「くるま」：自動車共済・自賠責共済
 「農業」：農作業中傷害共済、特定農機具傷害共済など

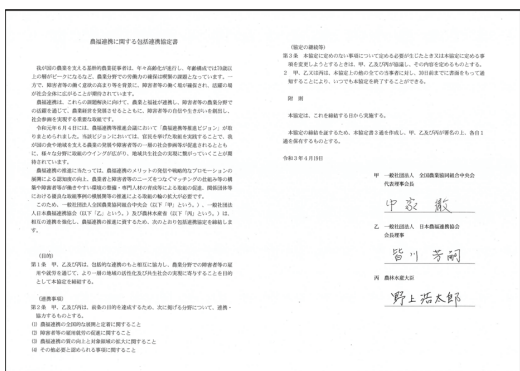
地域貢献活動

「ひと」：健康・福祉に関する取組み
 「いえ」：防災・災害救援に関する取組み
 「くるま」：交通事故対策に関する取組み
 「くらし・営農」：生活支援・農業の活性化に関する取組み

農福連携も主な活動の一つとして

～農福連携を応援する枠組み～ 「農福連携に関する包括連携協定」

「農福連携」を広く周知するうえで、一般社団法人 日本農福連携協会様・一般社団法人 JA共済総合研究所と間で「農福連携に関する包括連携協定」を令和5年4月に締結いたしました。



<本会が行っている「農福連携」の主な取組み>

1. JA共済マルシェを通じた「買って応援」の取組み
2. 農福連携を実践したいJAへのノウハウ提供活動（JA共済総合研究所を通じて）
3. 農福連携の取組み支援（JA共済総合研究所によるマニュアルの作成）



～農福連携に関連する取組み～自動車事故の被害・障がいからの社会復帰に向けて…

J A 共済が、自賠責共済を実施するうえで、昭和42年に「社会復帰施設の基本構想」を立て、昭和46年に「設立趣意書」を厚生大臣に提出し、身障者の医学的管理や能力開発、さらには職業の再訓練等をも包括した総合基幹施設として、昭和47年 静岡県に「社会福祉法人農協共済中伊豆リハビリテーションセンター」と大分県に「社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンター」を設立し、交通事故被害にあわれるなど、障がいを負われた方々の社会復帰を50年以上支援しております。



◆社会復帰の訓練の一環として、農作業は両リハビリテーションセンターで実施。
社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンターは、平成3年から温泉熱を活用した施設でミニトマトの栽培を実施。
障害福祉サービス事業所を設立して今年で35周年になり、農福連携としても今年で16年目の取り組みを継続しています。

～農福連携を応援する取組み～ J A 共済マルシェ

J A 共済は、組合員の助け合いによって生まれた組織です。

東京都千代田区平河町にありますJ A 共済ビルにてJ A 共済マルシェを開催（年7回）することで、日本農業に対する理解と親しみを感じてもらい、新たなファンづくりにつなげ、生産される農家・組合員の皆様の応援する取り組みを実施しています。（「農福連携を応援しよう！」は通年テーマ）



◆年7回 11:30～13:00（完売次第終了）J A 共済ビル2階エントランスホールで開催。

令和5年4月1日の三者協定以後、農福連携の周知・認知度向上のために「農福連携を応援しよう！」を通年テーマとして実施し、社会福祉法人農協共済中伊豆リハビリテーションセンターの利用者が作る紙・布製品、社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンターのみのりのミニトマトも販売している。

令和5年度、6年度は、一般社団法人 日本農福連携協会様のご協力で、ノウフクアワード受賞団体を中心としたJ A 共済マルシェを開催。

その際は、農林水産省農福連携推進室様より、ノウフクアワード受賞団体のポスターをお借りして来場者にPRしました。

◆ J A 共済「もっともっとノウフク2025」応援フェア 開催概要

「農福連携」を広く周知するうえで、11月29日（土）「ノウフクの日」にあわせて、農林水産省をはじめとした「もっともっとノウフク2025」に呼応し、『J A 共済「もっともっとノウフク2025」応援フェア』を以下のとおり、開催しました。

1. 目的

J A 共済は、農家・組合員・地域住民とともに「ひと」・「いえ」・「くるま」の総合保障を提供するなかで、社会福祉法人農協共済中伊豆リハビリテーションセンター、社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンターを設立するなど、疾病・事故などの障がい者の方々の社会復帰・社会参加にも応える取組みを既に50年以上実施しています。

「農福連携」は、農業と福祉が手を取り合って、障がいを持たれる方々などの社会参加につながる素晴らしい取組みです。

こうした「農福連携」の取組みを、広く告知することで、多くの方々に認知していただき、応援する輪をひろげるため、「もっともっとノウフク2025応援フェア」を実施いたします。

2. 実施期間：令和7年11月25日（火）～28日（金）、12月1日（月）～5日（金）（農水省の実施期間と同じ）

3. 開催内容

- (1) J A 共済ビル2階エントランスホールにおいて、オープニングイベントを令和7年11月25日（火）10：30～開催。
- (2) J A 共済ビル3階「みどり食堂」において、開催期間に「ノウフクメニュー」を用意し、ご提供。
- (3) J A 共済ビル2階エントランスホールや3階「みどり食堂」周辺の通路にて、農福連携の紹介を実施。
- (4) 農福連携野菜・果物のミニマルシェをJ A 共済ビル3階「みどり食堂」前において、12月4日（木）12：00～開催。

4. 開催協力

農林水産省（ポスター等記載には開催準備期間の関係等から記載できず）・一般社団法人 日本農福連携協会・横浜農業協同組合（J A 横浜）・社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンター・社会福祉法人農協共済中伊豆リハビリテーションセンター・日鉄興和不動産株式会社・エムサービス株式会社・帝人ソレイユ株式会社（農福連携紹介関係 ポスター等は記載せず）



農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動

●チラシ・ポスター



J A 共済ビルだけでなく、町会をはじめ、都道府県会館等近隣事業所への配布した。

●オープニングセレモニーの様子



J A 共済ビルエントランスホールでのオープニングセレモニーには多くの方々が来場



登壇者によるテープカット
（両脇には農福連携に取り組んでいる帝人ソレイユ株式会社の胡蝶蘭）



農福連携商品を提供していただいたJA横浜の皆様、別府リハ、みのりの皆様から来場者へメッセージ

<オープニングセレモニー 登壇者>

1. 主催者 全国共済農業協同組合連合会
代表理事理事長 村山 美彦
2. 来賓 一般社団法人日本農福連携協会
会長理事 皆川 芳嗣 様
農林水産省農農村振興局都市農村交流課
農福連携推進室長 藤田 覚 様
一般社団法人J A 共済総合研究所
理事長 小川 良介 様
横浜農業協同組合
代表理事組合長 柳下 健一 様



農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動

●紹介ブース・みどり食堂における「ノウフク応援メニュー」の提供状況（写真）



みどり食堂前には農福連携を実践している
帝人ソレイユ株式会社様の胡蝶蘭を展示
（オープニングセレモニーでも使用）



入口前に紹介・プレゼントブース



みどり食堂入口サイネージで紹介



「ノウフク応援メニュー」の前では行列も



オープニングイベント後の関係者試食の様子

農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動

JA共済

9

●みどり食堂における「ノウフク応援メニュー」の提供状況（販売状況）

みどり食堂運営会社（エームサービス株式会社）からの報告

01 出数のご報告

みどり食堂 農福連携 出数ご報告

		メニュー名	使用食材	準備数	出数	来客数	傾向指数
11月25日	(火)	冬の具沢山根菜キーマカレー	人参	150	141	602	23.4%
		スイートポテト	さつま芋	17	17	602	2.8%
11月26日	(水)	豚肉と大根の中華煮込み	大根	90	87	566	15.4%
11月27日	(木)	豚肉と小松菜の中華炒め	小松菜	90	73	555	13.2%
11月28日	(金)	小松菜とバナナのパウンドケーキ	小松菜	30	30	502	6.0%
12月1日	(月)	レタスとキウイのフルーツサラダ	キウイ・ミニトマト	20	20	625	3.2%
12月2日	(火)	1/2日分の野菜が摂れるちゃんぽん	人参・ほうれん草	122	122	620	19.7%
12月3日	(水)	キャロットケーキ	人参	30	28	526	5.3%
12月4日	(木)	豚肉とさつま芋の味噌炒め	さつま芋	90	83	575	14.4%
12月5日	(金)	ほうれん草チキンカレー	ほうれん草	140	136	560	24.3%

全日		ミックスサラダ	ミニトマト		計239食 1日平均27食
				総出数	976 食

事前に告知していたこともあり、全体的に農福連携メニューの提供数が伸びた2週間となりました。特に11/25(火)・12/5(金)のカレー2種では傾向指数が20%越え(5人に1人がカレーをご喫食)となり、通常時カレーの傾向指数10~13%を大幅に上回る出数となりました。「農福連携ってどんな取り組みなの?」と、興味をもって聞いて下さるお客様も多数いらっしゃり、本取組みには大きな意味があったと感じております。一方で、納品ルートや仕入れ方法・価格については課題もございましたので、次回実施時に向けて、またすり合わせ出来ればと思います。

農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動

Copyright © AIMS SERVICES CO., LTD. All rights reserved.

JA共済

10

●みどり食堂における「ノウフク応援メニュー」の提供状況（11/25～11/28メニュー写真）

02 提供メニュー写真

11/25(火)
冬の具沢山キーマカレー



11/26(水)
豚肉と大根の中華煮込み



11/27(木)
豚肉と小松菜の中華炒め



11/25(火)
スイートポテト



11/28(金)
小松菜とバナナの
パウンドケーキ



Copyright © AIMS SERVICES CO., LTD. All rights reserved.

農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動

JA共済 11

●みどり食堂における「ノウフク応援メニュー」の提供状況（12/2～12/5メニュー写真）

02 提供メニュー写真

12/2(火)
½日分の野菜が摂れる
ちゃんぽん



12/4(木)
ほうれん草とさつま芋の
味噌炒め



12/5(金)
ほうれん草チキンカレー



12/1(月)
レタスとキウイの
フルーツサラダ



12/3(水)
キャロットケーキ



Copyright © AIMS SERVICES CO., LTD. All rights reserved.

農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動

JA共済 12

●新聞等の記事（著作権法の関係から外部配布禁止）

レゾー
農業と福祉が手を取り合って特別メニューを用意！「JA共済『もっともっとノフク2025』
応援フェア」が開催
掲載日 2025/11/26 12:35 写真: Agence

JA共済は、11月25日に東京・千代田区のJA共済ビルにて、「JA共済『もっともっとノフク2025』応援フェア」のオープニングセレモニーを実施しました。



「JA共済『もっともっとノフク2025』応援フェア」オープニングセレモニーの様子

「JA共済『もっともっとノフク2025』応援フェア」は、農協連携推進の「もっともっとノフク2025」と連携して開催されるもので、11月25日から12月5日までの期間行われます（※土日を除く）。

同フェアでは、JA共済ビル内の「みどり食堂」において、農協連携で生産された農産物を使用した「ノフク応援メニュー」をランチタイムに提供予定です。そのほか、農協連携の取組みを紹介するパネル展示、農協連携のさらなる発展を目指す取り組みの紹介（※「みどり食堂」はJA共済ビル内の農産物売り場、近隣のバス・タクシーや自転車も利用可能。ノフク応援メニューは一日あたり約100種類提供予定）

マイナビニュース

「もっともっとノフク2025」応援フェア 農協連携食材を日替わりで提供 JA共済連
2025年12月5日

Twitter シェア LINEで読む

JA共済連は11月25日～12月5日、農林水産省が主催する「もっともっとノフク2025」との連携で「JA共済『もっともっとノフク2025』応援フェア」を開催し、初日の11月25日にはオープニングセレモニーを実施した。



参加者によるテープカット

期間中、東京・千代田区のJA共済ビル内に、誰でも利用可能な「みどり食堂」で、農協連携による農産物を使用した「ノフク応援メニュー」を提供した。メニューは日替わりで1日あたり約100食が提供された。また、ポスターやチラシ、サインageを通じて、農協連携を来訪者に紹介し、普及と理解促進を図った。

農業協同組合新聞

大分合同新聞 2025年（令和7年）

ミニトマトをPRする高田政志理事長

ノフクフェアに別府産ミニトマト50提供 農業で活用

【東支社】東京千代田区のJA共済ビル（地上21階、地下2階）の会場で、11月25日（土）の平日に別府市産のミニトマトが使われた。農協連携別府ハレアジェンシーセンター（同市鶴見）の障害者就労支援事業所の利用者が生産した。農林水産省主催の「もっともっとノフク2025」応援フェアの一環で、日替わりの農産物イベント「もっとも

分福会（中山一食、8社）

「みどり食堂」は、農協連携で生産された農産物を使用した「ノフク応援メニュー」をランチタイムに提供予定です。そのほか、農協連携の取組みを紹介するパネル展示、農協連携のさらなる発展を目指す取り組みの紹介（※「みどり食堂」はJA共済ビル内の農産物売り場、近隣のバス・タクシーや自転車も利用可能。ノフク応援メニューは一日あたり約100種類提供予定）

同センターは、期間中、約50分のミニトマトを東京に送り、農水省の食糧でも活用され、同センターの富田政志理事長は「収穫から箱詰めまで、こだわりを持って栽培している。ビル内で働く方々と地域に響んでも話した。」（高田政志）

「みどり食堂」は、農協連携で生産された農産物を使用した「ノフク応援メニュー」をランチタイムに提供予定です。そのほか、農協連携の取組みを紹介するパネル展示、農協連携のさらなる発展を目指す取り組みの紹介（※「みどり食堂」はJA共済ビル内の農産物売り場、近隣のバス・タクシーや自転車も利用可能。ノフク応援メニューは一日あたり約100種類提供予定）

大分合同新聞（別府リハ）

上記の他にも、（一社）日本農福連携協会様、JA横浜様、別府リハなどからも多く情報発信いただくことで、取組みを広く周知することができた。



農業のために 地域のために 明日のために
JA共済の地域貢献活動

●ミニマルシェの開催（12月4日）

緊急開催！！
JA共済ミニマルシェ

開催日時 12月4日（木）12:00～
（完売次第終了）

会場 JA共済ビル3階みどり食堂前
商品予定（数量限定）

- ・ノフク応援みどりセット
（キウイ・ほうれん草）
- ・ノフク応援セット（みかん・生菜）

いずれも500円（税込）
現金がPayPayでお支払可能。

JA共済/もっともノフク2025/応援フェア

告知チラシ



商品写真



販売の様子

JA横浜の農福連携を活用されている農家の方のご協力を受け、みどり食堂前にてミニマルシェを開催。80セット限定で12:00に開催したところ、30分足らずで完売しました。



農業のために 地域のために 明日のために
JA共済の地域貢献活動

〔参考〕JA共済の主な地域貢献活動

JA共済の地域貢献活動は、4つの分野にわけ、地域の皆様の「安心」で「豊かな生活づくり」を支える取組を実践しています。（詳細はJA共済 地域貢献活動HP「ちいきのきずな」をご覧ください。）

ひと分野 健康・福祉



レインボー体操、ちょいムズチャレンジ、健康・介護ホットライン、介護ノウハウ提供活動・JA共済しあわせ健康教室

いえ分野 防災・災害救援



災害シート・災害キットの無償配布、ザブトン教授の防災教室

くるま分野 交通事故対策



JA共済アンパンマン交通安全キャラバン、交通安全教室、交通安全落語、自動車・自転車安全運転診断、服装見えやすさ診断「見えチェック」

くらし・営農分野 生活支援・農業振興



農福連携の支援、農作業効率化・農業高校等への支援、交通安全落語、食育イベント・農業体験の開催支援、小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール開催、野球協会などの活動に協賛



農業のために 地域のために 明日のために
JA共済の地域貢献活動

15

農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動



16